

志木市低炭素まちづくり協議会（第3回）

～ 議事要旨 ～

- 日 時： 平成 26 年 3 月 17 日（月） 15:00～17:00
- 場 所： 志木市役所 3 階 301 会議室
- 出席者： 埼玉大学大学院 理工学研究科：久保田尚教授（会長）
横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院：吉田聡准教授
国際興業グループ株式会社 運輸事業部運輸企画課
東武バスウェスト(株)新座営業事務所
志木駅東口広場タクシー組合 有限会社志木合同タクシー
東京電力株式会社志木支社
大東ガス株式会社
大村商事株式会社
志木商工会 青年部
志木市 企画部 政策推進課
志木市 市民生活部 生活安全課
志木市 都市整備部 都市計画課
志木市 市民生活部 環境推進課
志木市 教育政策部 教育総務課
埼玉県 都市整備部 都市計画課
埼玉県 環境部 温暖化対策課
埼玉県 環境部 環境政策課
(事務局) 志木市 都市整備部 都市計画課
計量計画研究所（記録）

□ 議事内容：

(資料 2：低炭素まちづくりの目標及び将来像)

- ・これまで、3 案の将来像を示していたが、庁内で調整した結果、『人にやさしく、環境にやさしい活気に満ちたまち志木』にしたいとの結論に至った。案には、歴史というキーワードが入っていたが、建物の保存や移転の補助がない状況を踏まえると、今後、施策を実施することが難しいと考え、新たに活力というキーワードを加えて設定したいと考えている。【会員】
- ・将来像のキャッチフレーズを『人にやさしく、環境にやさしい活気に満ちたまち志木』とするとのことだが、その下の項目には、歴史が含まれて良いのか。【会長】
- ・歴史については、方策で触れておらず、CO₂の削減効果も低いことから、できれば削除

したいと考えている。

- ・4 番目に歴史と入っているが、削除したいというのが市の考えということか。ちなみに、
活気というキーワードがあるが、これは具体的に何を意味するのか。【会長】
⇒活気に満ちたまちづくりというものが、歴史を踏まえて取り組んでいくのではない
かと思われるので、歴史という枠に記載されている文章を活気の中に入れてはどう
かと思われる。【事務局】
- ・街中に出て来てもらうことで、活気を創出すると同時に、移動距離が短くなることで、
低炭素につなげたいと考えている。【会員】
- ・その要素が、歴史の中に書かれている回遊とか、風格のある建物であり、これらを活
かすのもまちづくりの一環ではないかと思われる。【会長】
- ・歩きやすいまちづくりに向けて、回遊できる環境の整備は必要かと考えているが、歴
史的施設が少ないのも事実であり、これらの建物の保護・保全については、仕組みも
ない中で、表現することが難しい。【会員】
- ・建造物の保全の話になると、難しいが、歴史的資源が点在しているのは確かなので、
それらをつなぐ歩行ルートなどはやっていくとのことなので、表現を変更して、活気
に含めることとする。【会長】

- ・資料 2 の p5 に志木市の目標値があるが、ここで、目標値を 20%や 60%としているにも
関わらず、何故、都市分で受けるものが 5.8%と 17.4%になるのか教えて欲しい。【会員】
⇒日本全体で 70%削減する時に、どのような取り組みで削減をしていくのかを整理し
た図が p5 であり、この内訳を見ていくと赤い破線の部分が、都市計画の取り組みで
担うことができる部分である。これが 3 割弱ぐらいとなっているので、これを基に
5.8%と 17.4%という値を設定している。【事務局】
- ・都市計画部門で 5.8%と 17.4%の削減を志木市だけでなく、全国の自治体が行うことで
20%や 60%の削減ができるということか。これだと、志木市単独で見たときには、20%
や 60%の削減には届かないと思われるが、問題ないのか。【会員】
⇒国が示している低炭素まちづくりのハンドブックでも同じ考え方が示されているの
で、問題ないと考えている。しかし、国の削減目標が各市にアロケーションされて
いないという問題があり、都市によって排出構造が異なる中で、どういう方法を取
れば各市が公平に負担できるかという議論が進んでいない。セクターアプローチ
を取っている訳ではないが、全国の排出状況を踏まえると、このような出し方がで
きるのではないかというものである。【事務局】

- ・目標値の基準年がバラバラになっているようなので、何年比で考えるのかが分かるよ
うにした方が良い。【会員】
⇒記述が不足しているが、2010 年が 1990 年とほぼ同様の排出量であることから、直近

の 2010 年を基準としている。【事務局】

(資料 3：集約地域の設定と施策展開)

- ・既存のバス路線を組み込んで整理して頂いていることに嬉しく思うが、大型車の通行規制からは、路線バスは除かれると思うので、記載して欲しい。【会員】
- ・イラストを見ると、電柱がないようだが、将来的に無電柱化を希望するということなのか。【会員】
⇒そこまではイメージせずに記載していた。志木駅につながるメイン通りは、無電柱化を行うかもしれないが、他の地域ではどこまで無電柱化を行うかは難しい。ただし、2050年の絵を書くときに、電柱がある絵を書くのが良いのかどうかは悩ましい問題であり、相談しながら考えたい。【事務局】
- ・駅前は、無電柱化を希望するということか。【会員】
- ・駅前中央通りは、無電柱化をしていきたいと考えている。また、その他の街路でも電柱があることで通行しにくいところは、歩きやすいまちづくりの視点から、無電柱化を検討していきたいと考えている。【会員】
- ・パース絵を書くという視点からすると、電柱を書かないから無くすというものではないので、調整して欲しい。パース絵は、今後ブラッシュアップしていくとのことなので、お気づきの点や要望があれば、伝えて欲しい。【会長】
- ・集約地域が 3 つあるが、将来像に掲げているキーワードとの関係が分かりにくいので表現を修正して欲しい。例えば、志木駅東口集約地域では、“環境”というキーワードが出てこないなので、分かるが良い。【会員】
⇒ご指摘のとおり、将来像との関係が見えにくくなっているので、言葉を補うこととする。【事務局】
- ・館・幸町地域などの志木ニュータウンも集約地域として設定してはどうか。【会員】
⇒今回の計画では、事業が立ち上がっている地域や市の重要な地域を中心に集約地域に位置づけることを想定している。低炭素まちづくり計画の構成として、はじめに全体のコンセプトがあり、集約地域はそこに追加していけるものだという認識をしている。志木ニュータウンは、規模も大きく、低炭素化に取り組んでいくべき地域かと思われるが、短期的に取り組むことが困難であることから、ある程度検討が進んだ段階で位置づけてはどうかと考えている。【事務局】

(資料 4：低炭素まちづくりのロードマップ)

- ・ヒートアイランド現象の軽減に関する施策も追加した方が良いかと思われる。保水性

舗装やエコチップの活用、学校の校庭の芝生化などがあるのではないかと。みどりには、落ち葉の問題があるので、どのような品種が良いのか、花粉も少ないものが良いのかなども検討が必要ではないかと思われる。【会員】

⇒ご提案頂いた項目は、追加していきたい。【事務局】

- ・ヒートアイランド現象の対策には、緩和策と適応策があり、これまで緩和策に取り組んできたが、なかなか効果がなく、適応策として緑陰空間などをスポット的に整備することが重要だと環境省も動いている。今回の計画の中でも緩和策と適応策を総合的に行っていくと示したほうが良いかと思われる。【会員】

⇒みどりは、適応策を中心に記載しているので、緩和策にも取り組んでいくことが分かるように表現を修正したい。【事務局】

- ・住宅開発の多くは、大規模なハウスメーカーが受注し、業者をお願いしているように感じているが、地域工務店とはどのようなイメージなのか。【会員】

⇒建売の住宅を作っている工務店をイメージしている。街区単位での開発であれば、大きなハウスメーカーが参入し、会社の社風を踏まえた高効率機器が導入されるが、志木市の場合、今後まとまった開発ではなく、空いたところから局所的に建物更新が起きると思われる。地域の工務店が建て替えるときに、低炭素という視点が頭がないと取り組んでもらえないため、このような勉強会が必要かと考えている。【事務局】

- ・将来的に、建物開発に対して低炭素化が義務化されれば、やらざるおえないのかと思っている。【会員】

- ・地域エネルギー会社とは、どのようなイメージなのか。【会員】

⇒街区単位でのエネルギーのコミュニティ形成が考えられないかということで、前回会議で示しているものである。【事務局】

- ・これは、市と会社が一緒になって取り組んでいくものなのか。【会員】

⇒いろいろな形態があると考えている。例えば、高圧一括充電などからマンション全体のエネルギー需要の管理に発展するのであれば、必ずしも市が入るわけではないと考えている。一方で、街区単位で面的に行う場合には、公的な部分も必要かと思う。具体的方法は、今後、議論かと思われる。【事務局】

- ・こちらにもチャンスがあるということか。【会員】

⇒全ての人にチャンスがあると思われる。【事務局】

- ・小水力発電については、行政と企業がコラボしてやる方法として、場所は行政が提供し、機材を企業が持つというものもあるようなので、実施方法も今後議論が必要かと思われる。【会員】

⇒小水力発電については、市の方でも検討した経緯があり、現況の技術では難しいとの結論になっている。将来、色々な機器の効率が上がってきたときに、検討することをイメージしている。その際には、枠組みも含めて議論していく。【事務局】

- ・ロードマップの中では、地域供給会社者の出資と記載されているが、出資だと他の施策よりも具体的な表現に感じる。【会長】

⇒検討にするなど、表現は見直しを行う。【事務局】

- ・交通とみどりの目標が、〇%となっているが、どのようにするのか。【会長】

⇒事務局としては、積極的に設定したいと考えているが、具体の数値目標を設定するのが難しくこのような表現になっている。技術的に難しい部分もあるかと考えているので、落とすときには落として、〇%とは記載しないこととする。【事務局】

- ・バスターミナルは、バスの乗り換えだけでなく、パークアンドライドなど他モードも含めた乗り換え拠点という理解で良いのか。【会員】

⇒マルチモーダルの乗り換えをイメージしており、宗岡地区の利便性の向上をイメージしている。【事務局】

- ・ロードマップの施策の実施時期が、“新病院での路線バスの乗り入れ”と“バス待ち環境の改善”が分かれているのは何故か。【会員】

⇒当然、路線バスが入るときにバス待ち環境を整備するが、ここで記載している“バス待ち環境の改善”は、もうワンランク上をイメージしている。将来的には、病院の中までバス車両が入れないかという議論が前回あり、これは、水素バスなどが排気ガスを出さない車両が実現しなければならないことなので、分けて記載している。【事務局】

- ・水素バスとEVバスの2種類のバスを導入することには、どのような理由があるのか。【会員】

⇒路線バスでは、EVよりも水素を主として開発が進んでいることや、小型の車両については、日野自動車などでEVポンチョの開発が行われていることから、現在の開発状況を踏まえて、かき分けている。【事務局】

- ・電気バスの導入が目的なのか、館・幸町地区への足が欲しいのか、どちらなのか。【会員】

⇒足を確保したいというのは当然あり、確保するのであれば、環境に優しくということでEVの導入検討と示している。【事務局】

- ・コミュニティバスとなると、100円バスなどとイメージされるが、小型のバスを入れることが目的であれば、路線バスとした方が良いのではないかと【会員】
⇒小型のバスを入れるというイメージなので、かならずしも「コミュニティ」という表現にする必要はないと考えている。【事務局】
- ・小学校の太陽光発電とあるが、どのようなイメージなのか。また、屋根貸しなどは、加えないのか。【会員】
⇒現在は、小学校への太陽光発電導入を行政が行っているが、行政以外が行っても良いのではないかとと思われる。自宅には入れられなくとも、基金という形で学校に入れるという方法も考えられる。環境に対する意識が高まるので、そのような枠組みがあっても良いかと思う。屋根貸しについても、検討していきたい。【事務局】

(資料5：低炭素まちづくりの施策効果の検証)

- ・バスの部分に水素バスの削減効果があり、その他の環境対応車にも水素バスという表現が出てくるが、重複していないか。【会員】
⇒書き方の問題であり、重複していないので、表現は修正したい。【事務局】
- ・目標が達成可能な水準である、とのことかと思われる。【会長】

(資料6：PDCA)

- ・この低炭素まちづくり協議会はいつ設置されるのか。【会長】
⇒具体的にアクションプランを実施する中で必要かと思うが、まだ、設置時期までは検討できていない。【事務局】
- ・平成26年度に関係部局を集めて、どのように進めていくかを議論していく。【会員】
- ・概ね5年ごとに評価し、10年目に見直しとあるが、評価後5年間放置するということか。【会員】
⇒低炭素まちづくり計画自体は、短いスパンで見直すものではなく、10年程度をイメージしており、5年ごとに評価は、アクションプランをイメージしている。表現を追加して分かるようにしたい。【事務局】
- ・全国の色々な会議に参加しているが、PDCAを計画に記載するものの、動き始めない自治体がたくさんあるので、是非、動かして欲しい。【会長】

(その他)

- ・次世代の機器を用いた取り組みとして、エコドライブを計測する機械がある。これに

より、運転状況を診断することができる。初期投資は掛かるが、燃費が下がるので、効果的だと思われる。【会員】

- ・この低炭素まちづくり計画は、パブリック・コメントを実施し、取りまとめ、国土交通省のホームページで公表していく予定である。【会員】
- ・公表までのスケジュールは、どのようになっているのか。【会員】
- ・今年度の検討となっているので、4月1日からパブリック・コメントを実施したいと考えている。【会員】

・頂いたご意見については、会長と事務局に一任して頂きたいと思うが、良いか。【会長】
～一同異議なし～

以上
(文責：IBS)